

人むすびの場

第39回テーマ

“本のチカラを考える”

～移動図書館活動から見えてきた『支援』のかたち～

日時	平成23年10月24日(月) 午後7時～9時
会場	スペースU
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



プログラム

- 19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝
- 19:05 ◆スピーチ
「本のチカラを考える
～移動図書館活動から見えてきた『支援』のかたち～」
鎌倉 幸子(かまくら さちこ)さん
(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 広報課長
兼岩手事務所図書館事業スーパーバイザー)
- 19:50 ◆人むすびカフェ
ファシリテーター 角田 知行
- 20:55 ◆本日のまとめ
21:00 終了
交流会(ピアンタ)



「本のチカラを考える

～移動図書館活動から見てきた『支援』のかたち～」

ゲスト 鎌倉 幸子(かまくら さちこ)さん

(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 広報課長
兼岩手事務所図書館事業スーパーバイザー)

- 新東日本大震災で、図書館も津波で壊滅的な被害を受けました。
- 3月14日以降、東北に入り、岩手の沿岸部を中心に移動図書館車で、岩手県陸前高田市、大船戸市、大槌町、山田町の仮設住宅を中心に巡回しています。本の貸し出しはもちろん、机や椅子を用意して、立ち読みやおしゃべりやお絵かきを楽しんでもらったり、読みたい本のリクエストにもお応えしています。
- 山田町は図書が3万冊津波で流出。大槌町立図書館や大船戸市にある三陸公民館図書館は建物全体を津波が襲い、本や備品すべてが把握不可能です。陸前高田市は図書館員が全員死亡もしくは行方不明で再開のめどが立っていません。図書館員の方が移動図書館をやりたいが、ノウハウと教えてほしいと始まりました。
- 「本とは何か？図書館とは何か？」と考えさせられます。
「こんな時だからこそ、今出会う本が子どもたちの一生の支えになると信じています」「心の栄養」「私見ですが、一番最初にやりたいことは図書館車を動かすこと」「子どもたちのためにも文化を途切れさせちゃいけないよね」etc.
など東北で図書館員の方などから耳にする言葉は、本によって体だけではなく、心が励まされているということです。震災孤児の子どもたちの横にいつも本があります。
- そして、図書館の役割の一つに地元の書店の保護もあります。本を買っています。
- 海外でもエジプトの図書館は「魂の治療所」と呼ばれています。アフガニスタンでは、「お菓子は食べたらなくなるけど、絵本はなくならない」「絵本を読むと楽しい気持ちになって夜ぐっすり眠れる」
- 東北でも本を通して生活に根ざしたいろいろな声が聞こえてきて、コミュニティをつなぐ“しゃべりば”になっています。
「育児書を探しにきた～」「手に入る食材が限られているから、簡単に作れる料理本があれば借りていこうかな」「被災して世話になった人たちにお礼状を出したいから、手紙の書き方の本ありますか？」のような声があがっています。
- いま、大好きな本、ちょっと励まされた本、ためになった本・・・自分の思いが詰まった本と同じ本を一冊買ってプレゼントしてもらおう「みんなで作る移動図書館プロジェクトfor いわて」もやっています。よろしくお願いします！

▽いわてを走る移動図書館プロジェクト

<http://sva.or.jp/iwate/>

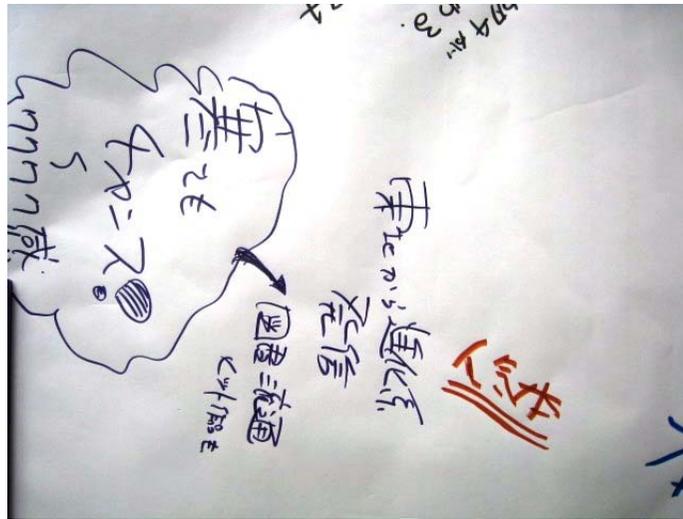
▽いわてを走る移動図書館プロジェクトfacebook

<http://www.facebook.com/SVA.Mobile.Library.for.Iwate>

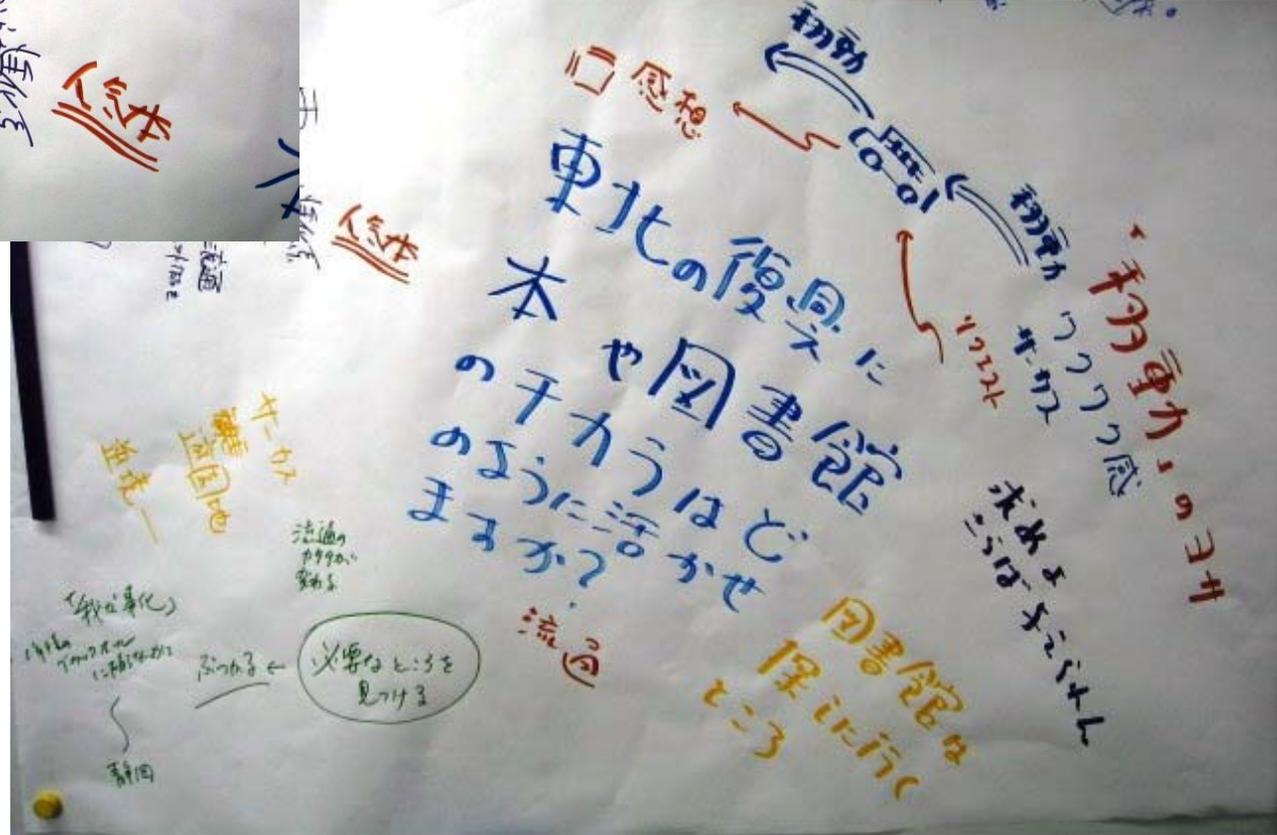


人むすびカフェ

「東北の復興に本や図書館のチカラはどのように活かされますか？」



感想を
↓
作家に伝える
元氣=本がよいですか? 虫は辞典の様
文芸春秋の臨時増刊号
子供たちの作文.



本日の感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・現場で・・・肌で・・・
- ・図書館は「探しにいくところ」
- ・移動図書館で行くことにより見えてくることがある。
生活に根差したことがわかる。
- ・本の記憶が自分を支えている 図書館は文化のとりで
- ・現場にいるだけだと見えないことが、活動のヒントがいただけました。
- ・現場に行かなければ気がつかないことがある。
(被災地の人の気持ちを踏まえて感じる)
- ・図書館の新しい形が見えてきたように思います。
- ・本の価値をもっと生かす
- ・「本」がつなぐコミュニティが大切な役割を果たしていること
- ・図書館は図書館でも従来のものを作るのではなく、新しいカタチが求められているんだと感じました。
- ・移動する楽しさ 本の力は無限大

本日の感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・テーマがあった テーマに沿って
- ・足で動く 自分から動く
- ・図書館の流通の形が変わる
- ・子どもの作文で「～なる！」と書いたら本当になる。それをまとめる。
- ・新しいカタチ
- ・なぜ図書館・本は必要かを改めて考えたい。
- ・「魂の治療所」
- ・移動図書館のビジネスモデル化 ⇒ 民のチカラ
- ・鎌倉さんの話の中で、「今出会う本が子どもたちの一生の支えになる」という言葉です。
- ・お菓子は食べるとなくなるけど、本は読んでもなくなるから好き
(アフリカの子ども)

本日の感想③

*** その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。**

- ・新しいことを始めるチャンスですね。
- ・ありがとうございました。
- ・いろいろな新しい発想が生まれました。楽しい議論ができました。
- ・Lワングランプリ 図書館総合展示会 パシフィコ横浜 被災地に向き合う
- ・新しい図書流通の可能性が東北から生まれそうなことがよかった。
- ・少人数でもよかったです。

皆さん、ご一緒に場をつくってくださってありがとうございました。